

授業科目名	体育科教育法	教員名	日高 正博 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	選択
					保育士	選択
科目番号	SID322	配当年次	3年前期		こども音楽療育士	
授業形態	演習				情報処理士	
単位数	2単位					
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	<p>小学校学習指導要領に基づいた体育科の授業づくりと指導法について、実践的な知識や技能の習得を目指す。そのために、新しい体育科の特質に沿った授業実践を意識した授業にする。</p> <p>(1) 体育科の目標及び内容 学習指導要領に示された体育科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2) 体育科の指導方法と授業設計 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>					
到達目標	<p>(1) 体育科の目標及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学習指導要領における体育科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。</li> <li>2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。</li> <li>3) 体育科の学習評価の考え方を理解している。</li> <li>4) 体育科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</li> </ol> <p>(2) 体育科の指導方法と授業設計</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。</li> <li>2) 体育科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</li> <li>3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</li> <li>4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</li> </ol>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	<p>体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>小学校における運動遊びや体育学習領域の特性や内容について理解するとともに、過去の教え込む、まねるという教育法から脱却し、子どもたちに自己判断・自己決定の能力を身につけさせることを目指した教育実践を行う必要性について学ぶ。そのために、基本的な体育の考え方や立場を概観した後、それらを踏まえ、実践への具体的な方策について理解し、実際の教育現場で必要とされる知識や技術の指導力の習得を目指す。授業形態は、演習とする。アクティブラーニングとして振り返り、レポート等を取り入れる。授業担当者の小学校教員としての実践経験を踏まえ、理論と実践が結びつくように講義していく。</p>					
履修条件・注意事項	1年次の「体育」を受講した人はそこでの学びと関連させながら、あるいは、自身のこれまでの体育科、保健体育科の授業を受けてきた経験や部活動での運動経験などと関連させながら、考えたりディスカッションしたりすること。					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション（目標(1)-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の目標・テーマ、授業の進め方、内容、評価等について確認する。</li> <li>・ 体育授業のイメージ</li> <li>・ 体育授業の基本的な特徴</li> </ul> <p>第2回：子ども達の現状と体育授業の構造（目標(1)-1, (2)-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「子ども達の身体のおかしさ」について。</li> <li>・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査から見える児童の現状と課題</li> <li>・ 体育授業の構造</li> <li>・ 授業成立の3要素</li> <li>・ 発育と発達について</li> </ul> <p>第3回：体育科の目標と内容構成（目標(1)-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育科の目標構造</li> <li>・ 学習指導要領の目標の歴史的変遷</li> <li>・ 学習指導要領と学校体育</li> <li>・ 総則と体育科教育の目標（「生きる力」を育むことの重要性和、我が国の児童がかかえる課題）</li> <li>・ 体育科の改善の基本方針</li> </ul>					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育・健康に関する指導の方向性</li> <li>・体育科の領域構成</li> </ul>
第4回	<p>運動の特性とスポーツ文化、学習内容と授業づくりのポイント（1） 運動領域（目標(1)-2), 4), (2)-2))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の特性（機能的、構造的、効果的特性）</li> <li>・素材であるスポーツ文化の広さと奥深さについて（親学問と体育・スポーツ学研究の専門領域について）</li> <li>・体ほぐし運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>目的と運動の内容</li> <li>身体接触を伴う運動の有効性について</li> </ul> </li> </ul>
第5回	<p>学習内容と授業づくりのポイント（2）（目標(1)-2), (2)-2))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>目的と運動の内容</li> <li>楽しく授業を展開するための留意点</li> </ul> </li> </ul>
第6回	<p>学習内容と授業づくりのポイント（3）（目標(1)-2), (2)-2))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上運動系① <ul style="list-style-type: none"> <li>学年による構成（走・跳の運動遊び、走・跳の運動、陸上運動）と内容構成</li> <li>主として「走」について、典型教材「8秒間走」と「折り返し持久走」について</li> <li>指導上の留意点と個に応じた目標設定の在り方</li> </ul> </li> </ul>
第7回	<p>学習内容と授業づくりのポイント（4）（目標(1)-2), (2)-2))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上運動系② <ul style="list-style-type: none"> <li>ハードル走について、技術のポイントと評価について</li> </ul> </li> </ul>
第8回	<p>学習内容と授業づくりのポイント（5）（目標(1)-2), 3), (2)-2))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上運動系③ <ul style="list-style-type: none"> <li>主として「跳」について、教材としての「ねらい幅跳び」</li> <li>指導上の留意点と個に応じた目標設定の在り方</li> <li>体育授業における評価について（特に、教育内容に即した評価）</li> </ul> </li> <li>・水泳系 <ul style="list-style-type: none"> <li>学年による構成（水遊び、浮く・泳ぐ運動、水泳）と内容構成</li> <li>指導上・安全上の指導</li> </ul> </li> </ul>
第9回	<p>学習内容と授業づくりのポイント（6）（目標(1)-2), (2)-2))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器械運動系 <ul style="list-style-type: none"> <li>学年による構成（器械・器具を使つての運動遊び、器械運動）と内容構成</li> <li>指導上・安全上の留意点、情報機器を使用する際の動きの確認及び授業活用例</li> </ul> </li> </ul>
第10回	<p>学習内容と授業づくりのポイント（7）（目標(1)-2), (2)-2))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール運動系① <ul style="list-style-type: none"> <li>球技の分類論</li> <li>学年による構成（ゲーム、ボール運動）と内容構成</li> <li>主として「ゴール型」について、バスケットボール、サッカーの歴史</li> <li>楽しくゲームを成立させるための指導の在り方</li> <li>ボールを持っているときと持たないときの動き、教材開発（タスクゲームとドリルゲーム）</li> <li>情報機器を使用する際の動きの確認及び授業活用例</li> </ul> </li> </ul>
第11回	<p>学習内容と授業づくりのポイント（8）（目標(1)-2), (2)-2))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール運動系② <ul style="list-style-type: none"> <li>主として「ネット型」について、バレーボールの歴史</li> <li>楽しくゲームを成立させるための指導の在り方</li> <li>ボールを持っているときと持たないときの動き教材開発（タスクゲームとドリルゲーム）</li> <li>情報機器を使用する際の動きの確認及び授業活用例</li> </ul> </li> </ul>
第12回	<p>学習内容と授業づくりのポイント（9）（目標(1)-2), (2)-2))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール運動系③ <ul style="list-style-type: none"> <li>主として「ベースボール型」について、野球の歴史</li> <li>楽しくゲームを成立させるための指導の在り方</li> <li>ボールを持っているときと持たないときの動き教材開発（タスクゲームとドリルゲーム）</li> <li>情報機器を使用する際の動きの確認及び授業活用例</li> </ul> </li> </ul>
第13回	<p>学習内容と授業づくりのポイント（10）（目標(1)-2), (2)-2))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学習としての体育授業</li> <li>・技能および仲間づくり（コミュニケーション能力の育成について）</li> </ul> <p>保健領域（目標(1)-2), 4), (2)-2))</p> <p>以下の内容についてねらいと内容構成について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の生活と健康</li> <li>・育ちゆく体とわたし</li> <li>・心の健康</li> <li>・けがの防止</li> <li>・病気の予防</li> </ul>
第14回	<p>体育授業の方法（目標(2)-1), (2)-3))</p> <p>体育授業の方法論について、以下の観点から講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教授方法について</li> <li>・教師行動について</li> <li>・学習形態について</li> <li>・学習過程について</li> <li>・指導案について</li> </ul>
第15回	<p>模擬授業（目標(1)-3), (2)-1), 3), 4))（体育館）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案を作成しての代表者による模擬授業の実践と振り返り</li> </ul> <p>レポート（指導案作成）及び期末試験</p>

授業外学修時間の確保について	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の講義内容について、参考資料、プリント等を調べ、疑問点等をまとめておくこと。</li> <li>・ 講義内容を自分なりに整理し理解しておくこと。次回授業時に簡単な小テストを課す。</li> </ul>
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時に課すレポートの内容30%、期末試験（知識・理解）70%で評価する。</li> <li>・ 60%以上を合格とする。</li> <li>・ なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</li> <li>・ コメントを付けてフィードバックする。</li> <li>・ 授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『小学校学習指導要領（最新版）』、『小学校学習指導要領（最新版）解説 体育編』</li> </ul>
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて資料を配布する</li> </ul>
担当者からのメッセージ	<p>体育科の授業は児童期の子供たちにとって非常に重要な役割を担っていると考えています。運動やスポーツが好きな子ども達に育てるのはもちろん、人間関係づくりや規範意識の醸成など、体育科でしか、あるいは体育科だからこそ育てられるものがあります。しっかり学んで、現場に出た時に体育科の授業を核にした学級づくりができるような先生になってほしいと願っています。</p>
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の前後の時間</li> <li>・ メール (<a href="mailto:mhidaka@miyazaki-u.ac.jp">mhidaka@miyazaki-u.ac.jp</a>) での連絡でもよい。</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当教員の小学校教員としての経験を活かし、具体的な授業づくりや自身の授業実践などを伝え、理論と実践の往還が機能するように講義する。</li> </ul>